



本庁舎



歌津総合支所

町経営の視点

本庁舎・歌津総合支所の再建プロジェクトに際して町と設計者側の2人のファシリティマネジャーが考えた方向性は、新庁舎が「南三陸杉のショールーム」となって、町の持続可能な生業の創出に貢献することであった。他に林業が盛んな自治体があまたある中で、「南三陸杉」を如何にアピールし市場に広く知らしめるか、その手法のひとつとして「日本初の公共施設におけるFSC®全体プロジェクト認証取得」を目指すことを発意し、町としての合意形成を図っていくこととした。

これまでの水産業、観光業に並び、古くから伝わる地域の産業である林業をこれからの町の生業に引き上げる事により、未来にわたる町の経営に貢献すること、そんなビッグストーリーをFM戦略として思い描いた。

取組みの柱

- ・復興におけるまちづくりへの貢献
- ・町の持続可能な生業の創出への貢献
- ・震災で失われた町の人と人との「つながり」を取り戻す
- ・新たな町の物語を紡ぐための協働・交流の場「マチドマ」

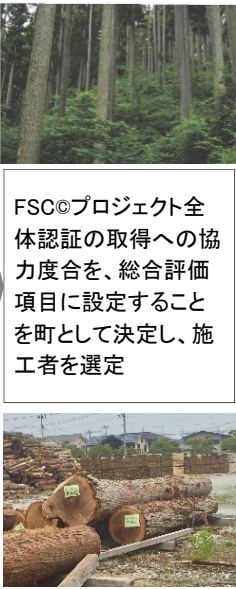
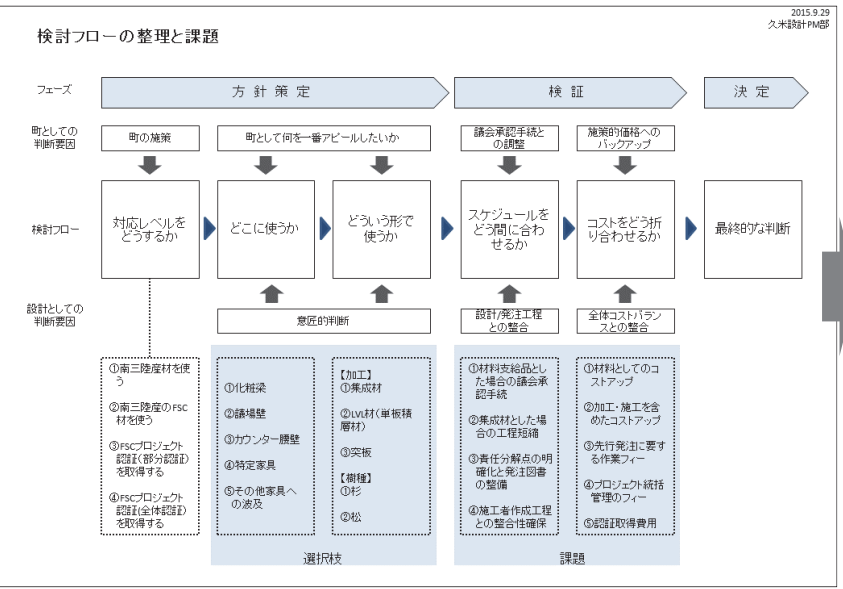
復興の中での意義

真の意味での復興とは、元の状態に戻すことではなく、積み重ねた経緯を振り返って伝統を批判しながらも継承し、これまでできなかった夢の実現に向けて、チャレンジすることなのではないだろうか。

そうした意味で、ゼロからの復興まちづくりでは、新たな物語を作ること、そのための長期的な視点に立ったシナリオや仕組みが必要となるものと思われる。

南三陸町では「山・里・川・海の連環」の中で町の人々の暮らしが豊かに維持されてきた。それを再認識し次世代へ継承していく上で、FSC®全体プロジェクト認証取得はそうしたシナリオの中のひとつのエポックメイキングに過ぎないが、復興の弾みとなり、町民の心を励ますことにつながるのではないかと考えた。

Plan 町産材の使用は設計当初より決まっていたが、コストや工期とのバランスを取りつつ、FSC®プロジェクト認証の取得を目指すことを検討し、施工者選定の総合評価項目の中に盛り込むことを決定した。



D. 選定された施工者を中心に「新庁舎FSC 認証材利用プロジェクトグループ」を関係者で組織した。手順書整備や教育訓練の実施を通して、全体認証取得を目指し、公共施設としては日本初の全体認証を取得した。

宮城のニュース

国際認証材活用をPR 南三陸町

東日本大震災で被災した宮城県南三陸町は16日、町有志津川畑田で再建を進めている町役場庁舎の現場見学会を実施した。町は新たな庁舎と町歌津地区で建設中の歌津総合支所が、環境に配慮した森林経営を後押しする森林管理協議会(本部ドイツ、FSC)の認証材を多用し、国内の公共施設で初めて「全体プロジェクト認証」を受けたことを明らかにした。

見学会には、県内の自治体や建設業者ら約100人が参加。総合ケアセンターであった説明会で、佐藤仁町長は「新庁舎を、国際認証を取得したFSC材のショールームにしたい」と思いを述べた。

出典: 河北新報ONLINE NEWS

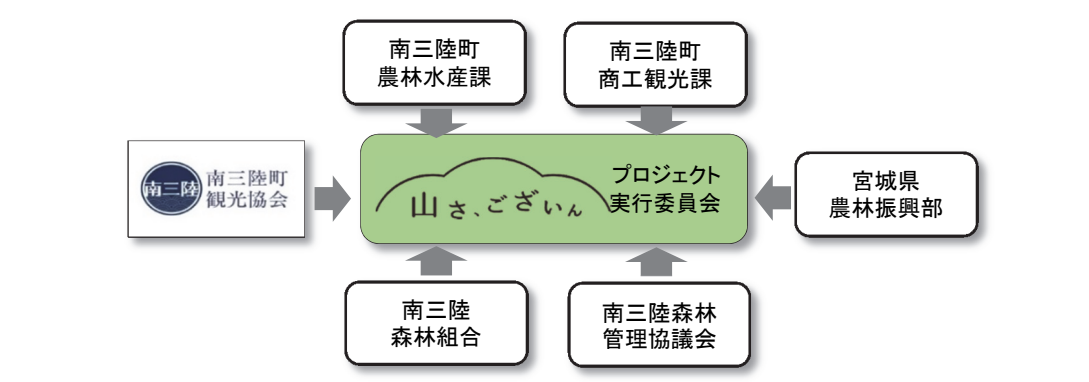
県内自治体や建設業者が多数参加した現場見学会での光景

Certificate of Registration

Mitsushima Town Office and Ohtani General Branch

Product Schedule

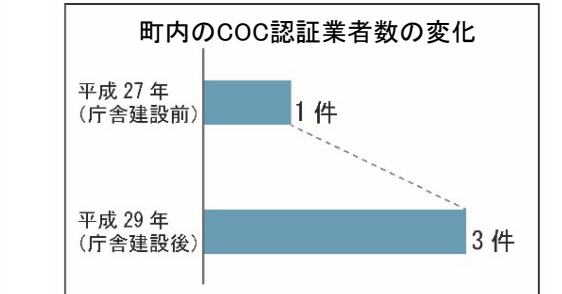
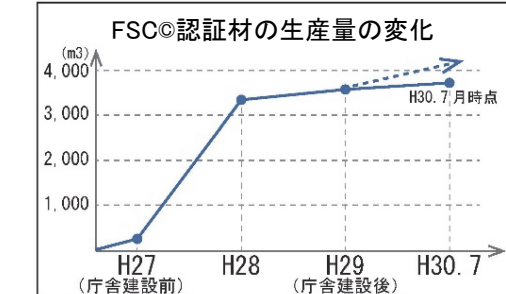
Action 今後のプロモーション活動として、「山さ、ございん」プロジェクト実行委員会の活動を核として、町の農林水産課・商工観光課等の全面支援のもとに、COC認証取得業者の拡大や町産材プロダクトを増やすプログラムを推進する。



「山さ、ございん」プロジェクト:
南三陸町杉の良さを活かし、デザイン性の高い内装材、家具、家づくりの糸口を見つけ、産業振興の道筋をつけていくためのストーリー発信のプラットフォームとして、山・里・川・海連続の物語を山から始めて、南三陸杉の発信、ファン作りを目指して、全国の人に来てもらう機会を創出するプロジェクト。

*「山さ、ございん」とは、宮城県地方の言葉で「山へいらっしやい」という意味

Check 全体認証の取得により南三陸町産材への関心が高まり、FSC®認証材の生産量(取引量)や町内のCOC認証業者数が着実に増加してきている。また、町産材プロダクトも増加してきており、林業振興への貢献が見受けられる。

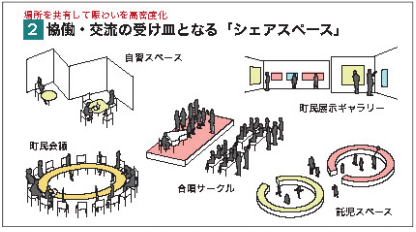
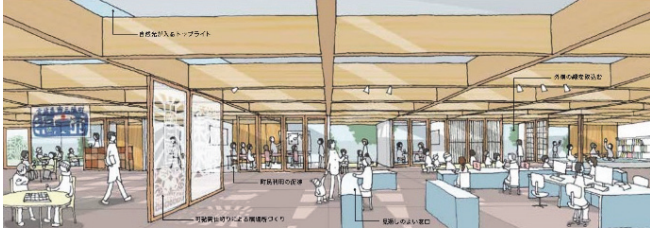


日本初の公共施設におけるFSC®全体プロジェクト認証の取得

復興まちづくりにおける庁舎づくり - まちの未来につながるFM 宮城県南三陸町

Plan

「みんながつながる」タウンセンターの象徴的な空間として、プロポーザルにおいて提案された「マチドマ」のアイデアを、町の未来を担う高校生を含めた町民ワークショップで、具体的な利用イメージを盛り込みながら発展させ、計画を取り纏めた。



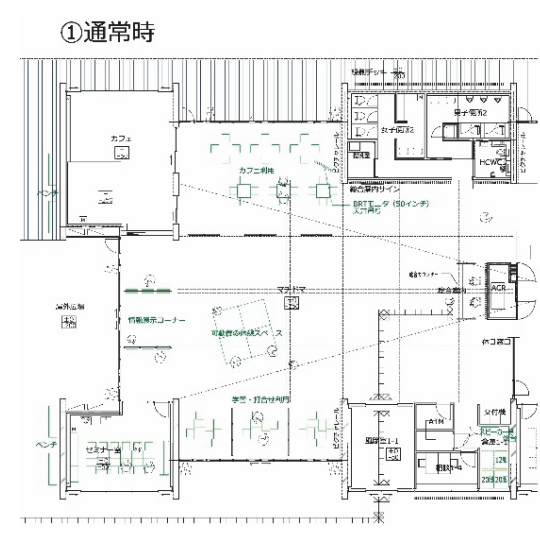
利用イメージの意見

- ・外で誰かと合う際に話をする場
- ・子供達が集まれる空間
- ・BRTの待ち時間に利用
- ・パブリックビューイング
- ・ご飯を食べながら対話
- ・展示会誘致

など

Do

設計段階では、想定される利用イメージに対応した「しつらえ」が可能なようにインフラ設備の他、可動間仕切りや移動家具等が検討され、工事・製作段階では南三陸町ならではの固有性(意匠・町産FSC材)が盛り込まれた。

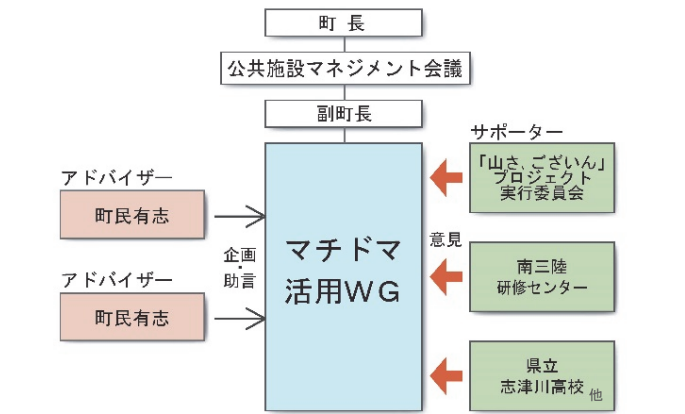


Action

町民が主体的に活用する「マチドマ」をめざして、町民参加の「マチドマ活用WG」を立ち上げ、企画・運営を行う仕組みをつくる予定。

Check

平成29年9月開庁以来、本年8月末迄の本庁舎のマチドマ利用率は44.7%である。最も利用率が高いのは「展示会」(52.8%)で、次いで「研修会」(8.8%)、「セレモニー」(5.7%)の順。町の伝承意匠の「きりこ」のワークショップや、台湾から来訪した学生達との交流の場としても活用されている点が特筆される。



公共施設マネジメント会議のもとに、町内関係各課の横串をさした「マチドマ活用ワーキンググループ」を組織し、企画・助言をお願いする町の専属アドバイザー2名と、町民の各世代に亘る意見を伺うサポーターを含めた官民協働体制で「マチドマ」の運営支援にあたる予定



「マチドマ」の創出と活用

復興まちづくりにおける庁舎づくり -まちの未来につながるFM 宮城県南三陸町